

令和4年第17回宝塚市教育委員会の会議（定例会）会議録

1 開催日 令和4年10月20日（木）

2 場 所 宝塚市役所 特別会議室

3 開会時間 午後2時00分

4 閉会時間 午後2時50分

5 出席した委員の氏名

五十嵐 孝教育長、木野 達夫委員、篠部 信一郎、松浦 一枝委員

及び石井 克馬委員

6 除斥した委員の氏名

7 委員及び傍聴人を除く、議場に出席した者

管理部長	高田 輝夫	教育企画課長	岡本 進
学校教育部長	坂本 三好	学事課長	今社 政彦
社会教育部長	番庄 伸雄	学校教育課長	平野 聖幸
管理室長	福井 健介	教育支援課長	稲中 伸彦
学校教育室長	伴 康史	青少年センター所長	毛利 敦子
学校教育次長	美除 浩	社会教育課長	水野 寧
		中央図書館長	永尾 理恵子
		西図書館長	上木 英一郎
		学校教育課副課長	片上 健太郎
		教育企画課係長	板垣 慎一郎
		学事課係員	宮田 裕樹

8 会議の書記

教育企画課事務職員 藤原 明穂

9 議題

○議案第25号 令和5年度宝塚市立幼稚園の園児の定員の変更について

○議案第26号 神戸市立図書館と宝塚市立図書館の相互利用に関する協定の締結について

○議案第27号 宝塚市立図書館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

○報告事項 「宝塚市子どもの読書活動推進計画（第3期）」にかかる令和3年度の実施状況について

○報告事項 宝塚市立学校の「問題行動」案件について

会議の概要

開会 午後 2時00分	
五十嵐教育長	それでは、時間が参りましたので、令和4年第17回宝塚市教育委員会の会議（定例会）を開催いたします。傍聴希望の方はいらっしゃいますか。
岡本課長	おられません。
五十嵐教育長	それでは、本日の署名委員は松浦委員でございます。よろしくお願いします。
	本日の付議案件は、議決事項3件、議決事項以外の案件が1件です。
	それでは、進行について事務局からお願いします。
岡本課長	本日の付議案件は、議決事項3件、議決事項以外の案件1件です。
	案件については、一覧の通りです。
	また、本日追加の案件として、議決事項以外の案件が1件ございます。
	報告事項 宝塚市立学校の「問題行動」案件について。
	なお、この案件につきましては、個人に関する情報が含まれるため、非公開での報告でお願いいたします。
	御審議のほどよろしくお願いいたします。
五十嵐教育長	はい、分かりました。それでは、始めてまいります。
	議案第26号 神戸市立図書館と宝塚市立図書館の相互利用に関する協定の締結について、担当課より説明をお願いいたします。
上木館長	議案第26号 神戸市立図書館と宝塚市立図書館の相互利用に関する協定の締結について、提案理由を御説明申し上げます。
	本件は、宝塚市民が神戸市に隣接する市の住民として神戸市立図書館の館外貸出を利用できる一方で、神戸市民が宝塚市立図書館の館外貸出を利用できなかったことから、本協定の締結をもって、宝塚市立図書館が神戸市民への館外貸出を開始し、相互利用を促進するものです。
	なお、館外貸出は、両市がそれぞれ定める図書館に関する規定に基づき、個人貸出に限ります。
	本協定は、令和4年12月1日から発効する予定でございます。
	説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

- 五十嵐教育長 ありがとうございました。
- 何か今の件につきまして、御質問等ございますでしょうか。
- 木野委員 もともと宝塚市民は、神戸市の館外利用を利用できたけれども、逆はできなかったということですが、元々そうだったのは、何か理由があるんですか。
- 五十嵐教育長 いかがでしょう。
- 永尾館長 神戸市は、隣接市に対して貸し出しを認めるというようなのを平成3年に行いましたが、その当時宝塚市は阪神間の相互利用を進めている時期でございましたので、まだその影響がどの程度あるかというのが分かっていなかったもので、その当時には、神戸市民が宝塚市を利用することについては、少し待ってくださいということで待っていただいております。
- その後、神戸市から特に働きかけもありませんでしたので、このままきておりましたが、今年の5月に改めて依頼がありましたので検討しました結果、今年から相互利用を始めるということになりました。
- もともと隣接市ということで、宝塚市と神戸市、ごく一部しか隣接しておらず、宝塚市に在勤・在学の方はすでに利用できている状況ではありますので、神戸市在住という要件の方のみが増えたとしても、それほど影響はないと考えて、今回相互利用の協定を結ぶことになりました。
- 木野委員 ありがとうございます。
- 上木館長 少し補足ですが、隣接市ということで神戸市と隣接する三田市や西宮市は既に相互利用を行っております。その経過も踏まえて今般、相互利用をするということになりました。
- 五十嵐教育長 ありがとうございます。他に御質問ありませんか。松浦委員。
- 松浦委員 実際、この市外の方の利用というのは、どのくらいあるんですか。結構ありますか。
- 上木館長 阪神7市1町は協定を結んでいるため相互に利用することができ、例えば川西市民が宝塚の図書館を使う、宝塚市民が伊丹市の図書館を使うことは結構多いです。特に宝塚の場合は、仁川方面の方であれば隣接している西宮市とか、山本、雲雀丘方面の方であれば川西市の図書館というのは結構ございます。

松浦委員 ありがとうございます。

五十嵐教育長 よろしいですか。

では、私からも神戸の方が宝塚の図書館を使えなかったわけですね、これまで。それが今回使えるようになったわけですが、それは神戸市民からそういう声があがったわけではないんですか。神戸からの依頼というのは、市民の方から「宝塚の図書館を使いたい」という声がありますよみたいなことで依頼があったんですか。

上木館長 実は、神戸の内情と言うか、神戸の議会の方でも一方通行が不公平ではないか、というようなやりとりがあったように聞いておりまして、今年の５月頃に神戸市の課長さん、館長さんがおいでになり、改めて依頼を受けまして、宝塚市の方でも検討させてもらうということで今回に至った次第です。

五十嵐教育長 分かりました。

この件については、他に何か御意見等ございませんか。よろしいですか。

では、議案第２６号 神戸市立図書館と宝塚市立図書館の相互利用に関する協定の締結については、原案通り可決といたします。

続きまして、議案第２７号 宝塚市立図書館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について、担当課より説明をお願いいたします。

番庄部長 ただいま、議案第２６号で議決いただきました中身も含めての規則改正ということになります。タイトルといたしましては、宝塚市立図書館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について、説明申し上げます。

本件は、ただいま御審議いただきました、市立図書館で貸出を受けられる者について、阪神７市１町に住所を有する者に加え、神戸市に住所を有する者を新たに加える規則を制定するほか、マイナンバーカードやFelica対応カード、非接触型のカード等にも利用券に代替するものとして使用するため、必要な規則を改正するというような主旨のものでございます。

規則案を付けております。ここにごきます通り、第１０条にあります尼崎市以降、阪神７市１町となっておりますのに神戸市を加えるということ。それから、第１１条以降の規定につきましては、個人番号カード及びFelicaカード等に対応できるような規則改正ということになっております。

五十嵐教育長

簡単ですが、説明は以上でございます。

ありがとうございます。

この件につきまして、御質問等ございますか。

対応カード等の“等”ですけれども、他にどんなものがありますか。

永尾館長

マイナンバーカード以外ですと、既に利用できるのですが、交通系のカードですね。PiTaPaですとかICOCAですとか、そういうICカードについて、図書館利用券と連携させることができますので、そちらを図書館利用券の代わりに利用することができます。

五十嵐教育長

PiTaPa、Suica、あと何があるんでしょう。

永尾館長

交通系のカードですね。

五十嵐教育長

他に御質問、御意見ございますか。

委員

(なし)

五十嵐教育長

特にないようですので、議案第27号 宝塚市立図書館条例施行規則の一部を改正する規則の制定については、原案通り可決いたします。ありがとうございました。

それでは続きまして、議案第25号 令和5年度宝塚市立幼稚園の園児の定員の変更について、担当課より説明をお願いいたします。

今社課長

それでは、提案理由及びその内容を御説明申し上げます。

本件は、本年7月21日に開催致しました、第12回宝塚市教育委員会において決定いたしました、令和5年度の市立幼稚園の園児の定員のうち、仁川幼稚園、末成幼稚園、安倉幼稚園の3園における2年保育の定員をそれぞれ2学級60人から1学級30人に変更するものです。

この3園の2年保育につきましては、令和5年度の園児の定員をそれぞれ2学級60人定員としていましたが、本年10月3日から5日に実施いたしました市立幼稚園の入園児募集の結果、いずれの園も令和5年度の在籍者数が30人以下となりました。

この園児募集の結果を受けまして、当該3園の2年保育については、1学級30人に定員を変更いたします。

この変更により、令和5年度市立幼稚園の2年保育の定員は、8学級

240人となります。この定員の中で12月に変更後の定員で追加募集を行う予定としております。

なお、今回は2年保育の定員を変更いたしますけれども、2学級70人定員としている末成幼稚園の1年保育、5歳のクラスですけれども、令和5年度の在籍者数が35人以下となることが今見込まれております。12月に実施する園児の追加募集で、その結果を受けて、末成幼稚園の1年保育についてもその状況を踏まえて、1月頃に最終的な学級数を決定したいと考えています。

説明は以上です。

五十嵐教育長

ありがとうございました。

それでは、この件について何か御質問等ありますでしょうか。

石井委員

2つ関連していることだと思いますが、定員の予想をしていたのはどういう根拠なのかということと、学級が減ることで職員はどうなるんですか。

今社課長

定員については、これまでの応募状況を見て、例えば2年保育で宝塚幼稚園でしたら1クラスになっておりますけれども、通常2クラスの余裕はあるんですけれども、例年の状況を見て1クラスにしたと。そのような状況を踏まえて、学級数については決定しております。2学級のところが1学級になると、その分職員の数については減るということになっています。

石井委員

減るというのは？

今社課長

担任として配置する人数としては1人になるということです。

石井委員

仕事がなくなるということですか。

今社課長

減った一人については、また別の園ですとか、そういったところで勤務していただくことになります。

石井委員

じゃあ、その後で決まってくるということですかね。職員の配置っていうのは。

今社課長

配置決定は、1月2月その辺りです。

石井委員

決まってからですね。分かりました。

五十嵐教育長

今の件は、余剰の人員が出ないのかという御質問かと思うんですが、そこについては、管理はどうなっていますか。

もしも、これが3学級だとすれば単純に担任が3人もいらなくなったということですよ。

高田部長

毎年、定年退職で退職していく職員もいます。それと、自己都合退職もいます。それとプラスして、学級数が大きく減ってきていますので、一定数は、臨時職員でもって担任を充てているというところがありますので、学級数が最終決まればだいたい不足するんです、教員というのは。ですから、また臨時職員を雇用したり、あるいは退職して再任用の人を担任にお願いしたりということで調整していております。ですから、全体的に大体見込みを持ちながら、教員の配置をしておりますので、いわゆる余剰になって別の幼稚園以外のところで勤務させるというようなことは、今のところは発生しておりません。

今後も子どもたちの動向を見て、採用の人数であったり、退職者の見込みであったり、そうしたものはきちんと細かく見ておきながら、教員が余剰に配置されることが無いように調整はしていきたいと思っております。

今のところ、余ってどこか別のところで幼稚園以外の仕事をしていただくというようなことにはなっておりません。すべて幼稚園の中で完結しているということになります。

五十嵐教育長

石井委員、今の説明でよろしいですかね。

石井委員

はい。

五十嵐教育長

他に御質問ございませんか。

残念ながら、思っていたほど募集をかけても子どもが集まらなかったということですね、これはね。

あわせて今説明がありましたけれども、末成幼稚園につきましては、今ぎりぎりの人数なので、これは仮にこの後の追加募集で2名、3名と増えた場合には、2クラスになるということですか。

今社課長

そうです。

五十嵐教育長

35人ぎりぎりではいけば1クラスだけれども、あと2名増えたら37人になるでしょう。

高田部長

そうではなくて、今4歳児が60人定員2学級なんですね。4歳児につい

ては、まだ途中入園が可能なんです。ですから、4歳児からの進級児とこの一斉募集の人数を合わせて何人かという判断をしないといけないんですが、4歳児がまだ途中入園の門戸が開かれていますので、ここから1人2人3人とお引越しされて途中入園すると、その子たちがそのまま進級していきますので、たちまちこの今5歳児を今年5人募集して5人だったけれども、そもそも下から進級してくる子どもの数が増えると、2学級対応しないといけませんので、そうしたことも含めて1月ぐらいまで様子を見て、最終的に学級数を決定するということですね。4歳児の途中入園が大きく影響してくると思います。

五十嵐教育長 では、1月の時点で35人を超えるということが確定していけば、クラスを増やすということですね。

高田部長 増やすということになりますね。

五十嵐教育長 分かりました。それでは他にこの件について、御意見御質問はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

松浦委員 西谷幼稚園がこれで見ると、見込みで3歳児が2人、4歳児が1人、5歳児が3人となって全体でも6人なんですけれど、こういう場合でも必ず学年ごとに担任を付けて、クラス分けをするのでしょうか。

高田部長 西谷幼稚園の場合は、幼稚園としてお申込みいただいた方がこれだけの人数ですけれども一方、同じ施設内に保育施設があつて、0歳児からお預かりしているんですけれども、その子どもたちの3歳児、4歳児、5歳児は、朝は保育所として登園するんですけれども、幼稚園が始まる9時には幼稚園に移りますので、ここに出ている人数プラス保育所の子どもたちが幼稚園に加わりますので、全体的には20人ぐらいの園児にはなりますね。1クラス20人にはならないですけれども、1学年7、8人ぐらいになりますので、それぞれで学級運営をしています。

ただ、保育室があまり十分にありませんので、異学年交流というのは頻繁に、他の園と比べると比較的頻繁に交流はしていますので、4歳児5歳児と一緒に活動したりとかというのはよくあります。

ただ、クラスは基本的に別々でそれぞれ3、4、5歳児は独立して運営は

松浦委員

しております。

ありがとうございます。

五十嵐教育長

それでは、他に御意見御質問はございませんか。

委員

(なし)

五十嵐教育長

それでは、議案第25号 令和5年度宝塚市立幼稚園の園児の定員の変更については、原案通り可決といたします。

永尾館長

続きまして、報告事項 「宝塚市子どもの読書活動推進計画（第3期）」に係る令和3年度の実施状況について、担当課より説明をお願いいたします。

それでは、「宝塚市子どもの読書活動推進計画（第3期）」に係る令和3年度の実施状況について説明をさせていただきます。

毎回説明させていただいていますが、「宝塚市子どもの読書活動推進計画」とは、平成13年に制定された子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、宝塚市では平成20年に第1期、平成25年に第2期計画、平成30年に第3期計画を策定し、図書館では関係各課と協力しながら、子どもの読書活動を推進する事業を行ってきました。

なお、同計画に基づき、事業の進捗状況の管理は庁内の関係各課で構成する、子どもの読書推進委員会で行っております。

本日は、昨年度令和3年度の事業の実施状況について報告いたします。

お手元の資料は、実施事業のうち主だったものを抜粋して掲載しております。

図書館の事業のうち、いくつか取り上げて御説明いたします。左側の通し番号を申し上げますので、ご参照ください。

最初に、家庭での読書活動を推進するための啓発活動としまして、3番の「ことばの祭典・ビブリオバトル」について御説明します。

小中学生とも熱のこもった発表で、参加者との質疑応答でもしっかりと答えていたことが印象的でした。発表者は小学生7名、中学生3名、聞いておられる方含めると51名の参加となりました。学校教育課との連携事業となります。

5番の読書講演会ですが、恐竜博士として有名な国立科学博物館副館長の真鍋真さんを講師に迎え、「図書館からはじめる恐竜学」と題して読書講演

会を開催しました。講師に熱心に質問する子どもたちがたくさんおりまして、講師も丁寧に答えていただき、貴重な体験になったと思います。

続きまして、乳幼児期における読書活動の推進としまして、6番の「ブックスタート」を御覧ください。平成23年から行っている事業です。

「ブックスタート」とは、乳幼児から子育ての中で読書に親しんでいただくことを目的として、健康センターで行われる4カ月児健診の時にボランティアによる絵本の読み聞かせを行い、読んでもらった絵本から1冊選んで絵本をプレゼントする取り組みです。

コロナ禍により、現在4カ月児健診は市内の各医療機関で行っているため、令和2年度3月の4カ月児健診からちょっと行えていないのですが、受診者全員を対象に絵本の引換券を同封し、図書館で絵本をプレゼントしています。健康センターでのブックスタートは行えないのですが、そのような形で絵本をプレゼントするという事業は継続して行っています。

昨年度の健診対象者のうち、約55%の方が図書館に来館され、絵本をプレゼントしています。すぐに来られる方もいらっしゃるが、数カ月とか1年後に来られる方もいらっしゃいますので、実際にはもう少し多めの方に絵本を配布しています。

9番「子育て応援！図書館利用のための託児サービス」というのを始めました。満1歳から未就学児の保護者が、図書館でゆっくり本を読んだり選んだりできるように託児をする取り組みで、西図書館で令和3年度は4回実施しました。今年度令和4年度も行う予定です。「子どもが小さいので無理」と今まで図書館を利用しなかった、できなかった方の利用促進の一助となればと思っております。

次に、市立図書館における読書活動の推進ということで、19番を御覧ください。中学生以下で市立図書館の利用登録をされている方を対象に、図書館オリジナルの読書手帖を配布しています。図書館で借りた本を手書きで記録するほかに、図書館の利用者用検索機で印字した貸出本情報のシールを貼ることもできます。平成30年から開始しまして、ずっと使い続けてもう17冊目になるというようなお子さんもいらっしゃいます。

そのあと20番から37番までは、定例の行事になっておりますが、特に37番「ぬいぐるみのおとまり会」は、新聞に取り上げられるなど話題の取り組みです。コロナのため少し人数を絞って開催しております。

38番から40番、福袋関係の事業ですが、この事業は司書が選んだ楽しい絵本や読み物をおすすめ本として対象年齢別に袋に詰めた福袋を用意し、該当する福袋を貸出する取り組みで、毎年行っています。

38番の「司書が選んだ福袋」につきましては、西図書館臨時休館中に行いました。

また、「としょかん秋の福袋」は、中央図書館が工事で休館している時に行いました。休館のため図書館内で本を選ぶことができない子どもたちは、福袋の中にどんな本が入っているか興味津々で借りていきました。

41番、小学生から高校生向けの講演会も行っております。令和3年度につきましては、著名な文学作家の岡田淳氏を講師に迎え、「こうしてぼくは作家になった。そしてこうして物語をつくっている。」と題して講演会を開催しました。講演会を聞き終わったある小学生は、「将来作家を目指す」とアンケートに書いてくださり、大変意義深い講演会だったと思います。

42番「テントショカン」というのは、テントを出してリサイクル本を配布したり、イベントをしたりするような取り組みですが、やはり中央図書館休館中でありまして、昨年開館した小浜・安倉分室の周知のためのイベントとして行いました。

44番「移動博物館車『ゆめはく号』がやって来る」を御覧ください。先ほど紹介した読書講演会、恐竜関連の講演会にあわせまして、中央図書館の横の広場に兵庫県立人と自然の博物館から移動博物館車「ゆめはく号」を誘致し、恐竜化石のレプリカなど標本や資料の展示、研究員による解説を行いました。

54番最後ですけれども「絵本で楽しむ手話の世界」というのを始めました。絵本を通じて手話に親しんでもらうことを目的に、障碍福祉課と協力してろう者の方2人を中心に行いました。今年度も引き続き行っていく予定です。

五十嵐教育長

令和3年度も昨年度から引き続き、新型コロナウイルスの影響で定例行事の中止時期もありましたが、予定していた行事はほぼ実施することができました。今後子どもたちの読書活動をどのような形で支援していけるか、知恵を絞って、関係各課と協力しながら考えていきたいと思います。

長くなりましたが、以上です。

どうもありがとうございました。

それでは、ただ今の件につきまして何か御質問等ございますでしょうか。

では私から、ブックスタートの取組など、絵本を含め、本をプレゼントすることが度々あるようですけれども、これは年間どれぐらいの冊数を市民の皆さんに結果的に配布していることになるんですか。

永尾館長

リサイクル図書については、ちょっと統計を取っていないですけれども、ブックスタートについては、こちらにも書いていますが、去年は810名の方に配布しております。子どもも減っておりますけれども、コロナの前は、大体1年間に2,000冊近く配布していましたが、徐々に減っているというところです。

絵本だけではなくて、こういう袋に入れまして、中に図書館の案内ですか、絵本の案内なども入ってまして、絵本を選んでいただくという形です。

五十嵐教育長

この分はリサイクル図書ではなくて、ちゃんとした新しい本ですか。

永尾館長

そうですね。新品を差し上げています。

松浦委員

はい。

五十嵐教育長

松浦委員。

松浦委員

コロナになってから、全国の図書館や文化館が講演会をZoom配信されているところが増えてきて、私もすごく楽しみにしていて、なかなか普段聞けない作家の方とか詩歌の作家の方とか。なので、ぜひ宝塚市も講演のZoom配信を検討していただけたらと思います。

永尾館長

はい、ありがとうございます。

五十嵐教育長

今、検討中ですか。

永尾館長

そうですね。確かにコロナのために、中止になったり延期になったりというのをかなり繰り返してきていたので、配信なども視野に入れてやっていか

ないといけないなとは思っているんですけども、ただ、直接作家の方と会えるというのもまた、子どもたちにとっては特に良かったと思いますので、両方合わせてできればと思いますが、ちょっと検討させていただきたいと思っています。

松浦委員 詩歌なんかは、割と人口的には少ないと思うんですけども、Z o o m配信だと結構配信の方で視聴されている方がたくさん人数おられるようでしたので、また、ぜひ検討いただけたらと思います。

永尾館長 はい、ありがとうございます。

五十嵐教育長 それでは、他に御意見等ありませんか。

石井委員 よろしいですか。

五十嵐教育長 石井委員。

石井委員 図書館行事ですけども、例えば41番で1回で88名。小中校対象というのものもあるかもしれないんですけども、それ以外1回あたり参加者が1桁とか、これはコロナの影響なのか、これぐらいの予測・計画で実施しているものなのか、その辺りがもちろんコストがかかっていると思うので、イベントに対しての目標集客みたいなものがあるのであればちょっとお伺いしたいなと思うんですけども。

永尾館長 講演会などは、会場のキャパシティに合わせております。ただ、昨年までについては、定員の半分以上ということもありましたので、だいたい予想通りの人数になっているんですけども、定例行事につきましては、徐々に参加者が減っている状況ではありますが、ボランティアさんにも頑張っていたいので、こちらの方の広報の不足もあると思いますので、広報しながら、皆さんに来ていただきたいとは思っています。

例えば、「図書館探検隊」とか「図書館探偵調べものの達人」などは、少人数を集めて体験してもらうイベントになりますので、もともと定員一杯でこの人数になります。

石井委員 もう少し広報で、というイベントというか事業もあるということですかね。

永尾館長 そうですね。

石井委員 なるほど。

五十嵐教育長 よろしいでしょうか。

石井委員 はい。

五十嵐教育長 では、他に御意見等ありませんか。

委員 (なし)

五十嵐教育長 では、ありがとうございました。

続いての案件は、先ほど事務局からもありましたように非公開といたします。

では、報告事項に参ります。宝塚市立学校の「問題行動」案件について、担当課より説明をお願いします。

【 非公開での報告事項 】

五十嵐教育長 それでは、本日予定の案件は以上ですが、何か他に御報告等ありますか。

岡本課長 ございません。

五十嵐教育長 それでは、本日の教育委員会を閉会といたします。

どうもありがとうございました。

閉会 午後 2時50分